

若手ナシ生産者の技術習得支援

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

たてべ大凧果樹生産組合(平成13年設立、3戸、2.3ha)のK氏は、平成31年4月に親元就農され、地域の将来のリーダー候補として期待されています。日々の作業は、父親からの指示を通して技術習得されてきましたが、ナシの生理生態や栽培技術の目的等を学ぶ機会が少なく、知識習得の機会を求められていました。そこで、スムーズな経営継承へと繋げるために、座学勉強会や先進農業者視察研修会、実証ほの設置等を通じて知識習得と技術習得を支援しました。

【普及活動の内容】

(1) 座学勉強会と先進農業者視察

生育ステージに応じた作業のポイントとその根拠となるナシの生理生態をまとめた資料を作成し、座学勉強会を行いました。また、先進農業者を訪問し、自園との管理の違いや工夫等の知見を広げ、自園の栽培管理へ活かしてもらいました。

(2) 実証ほの設置と巡回による技術支援

K氏の技術向上を確認するため、自身が管理する管理樹を設置するよう提案し、園地巡回時に管理状況と生育状況を把握しました。そこで勉強会や視察の内容(作業適期やポイント等)を管理樹にどうフィードバックしたかを確認し、園地で復習することで各技術の理解度を高めました。また、管理樹の収量を調査し、父親の管理樹と比較することで、技術習得度を測りました。



写真1 先進農業者への視察

【普及活動の成果】

K氏の管理樹の収量は、父親の管理樹と比較して102%を確保でき、着実に技術レベルを高めることができています。来年度も継続して自身の管理樹を設置し、今年度の課題に対する改善策や自園で取り組んでいない技術等に取り組む予定となっており、技術向上に対して意欲を高めておられます。

また、視察研修会で学んだ技術の中には、樹形の変更が必要なものもありましたが、「収益性をあげるためには将来的に樹形の変更も考えなくてはならない」と、経営継承後のビジョンについて考えてもらう良い機会となりました。

◎対象者の意見

勉強会や視察研修など、知識向上の機会を作ってもらいたい。来年度以降も色々試しながら、結果が出れば取り入れていきたい。(生産者K氏)